

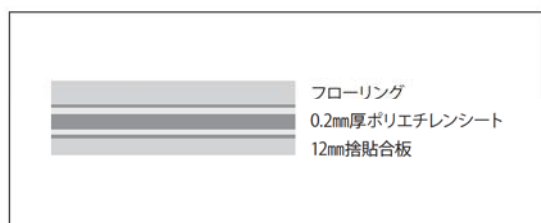
置敷工法 施工要領

【用意するもの】

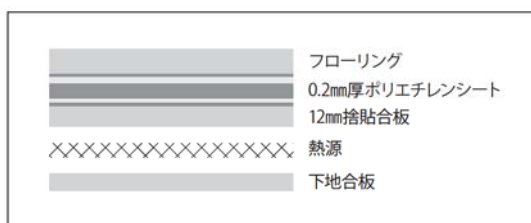
0.2mm 厚ポリエチレンシート+テープ、スペーサー（10mm 厚程度）

[施工の前に]

- クリックシステムによる簡易な施工ができる一方、実の高い精度が必要となります。実の破損、ゴミの詰まり等が無いが、予めご確認ください。
- 古いものと新しいものを混ぜて使用しないでください。膨張率が異なるため、実がぴったりと合わない恐れがあります。どうしても一緒に使う場合は、同じ場所で1週間程度、環境に馴染ませてから施工してください。
- 本紙掲載商品は全て、室内専用フローリングです。屋外での使用は絶対にしないでください。
また、コンクリート下地面へ直接施工することは出来ません。
- 納品後は、なるべく水平方向に寝かせて保管してください。立て掛けて保管すると反りの原因となります。
- ポリエチレンシートは最低20cmを重ね、床上に敷き込み、重ねた部分をテープで留めます。板面側および巾木を覆うように壁際5cmほど立ち上げるようにします。巾木を固定後にカットしてください。1,2階とも必要です。



通常の仕様



床暖房の場合の仕様

[施工の手順]

【下地】

無垢材より動きにくいとはいえ、全く膨張・伸縮しないわけではありません。
浮き上がり・突き上げを防ぐ為に、必ず下記項目を守って並べてください。

● 周囲を突き付けにしない

木の伸縮を床全体で吸収するため、部屋の四方を突き付けで施工すると、膨張の際に接合部が突き上がる原因となります。膨張を吸収できるよう、スペーサーを使って部屋の四方に10mm程度ずつクリアランスを設け、巾木や見切り材等で隠してください。

※出入り口がある場合、1辺ないし連続する2辺は突き付けでも施工可能です。
その場合、突き付けでない辺のクリアランスは15mm必要です。

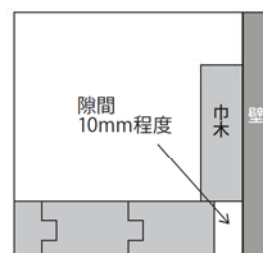
● 下地へ固定しない

フローリングを下地へ固定すると、床全体で伸縮を吸収するのが妨げられ、実が外れる原因となります。のり・釘による下地合板への固定は決してしないでください。

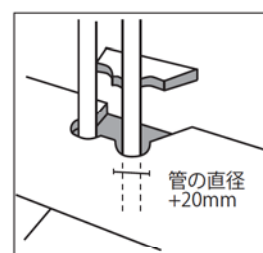
※重量物(大型金庫、ピアノなど100kgを超えるようなもの)を設置する場合、見切りをつけ縁を切ります。

※床に固定する家具を設置する場合、見切りをつけ縁を切ります。

※配管立ち上がりの穴は、配管から10mm開くように穴あけをしてください。



壁際の納まり



ピアノの脚や配管周りの納まり

- 通路等、長さが10m以上となる場合は、10m毎に見切り等で10mm巾の隙間(収縮調整スペース)を設けてください。
- 最初と最後の列の巾が50mm未満にならないよう、部屋全体で調整してから施工を開始してください。